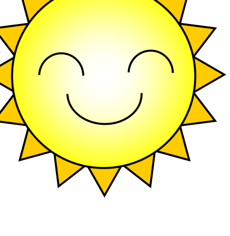
にこにこ通信

第一四八号

平成十九年七月二十日
〒九三三―〇八〇四
高岡市問屋町四十
有限会社　沖商店発
にっこりにこにこ
TEL　〇七六六―二五―二五二五
FAX　〇七六六―二六―五五〇〇
E―mail　info@oki-shouten.com



いつもお世話になりありがとうございます。『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょう』『人生の本来の目的は何なのでしょう』ということを皆様と一緒に考え、意見を交換し相って、共に研鑽を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいませ。

一　幸福とは何か・自分の価値観を築く

日本人の生活全般に対する満足感がこの数十年で低下し、「現代の日本人が総体として幸福であるか疑問である」という主旨のことを以前に書きました。今回は、そもそも幸福とは何なのかを考えてみたいと思います。

「岩波　哲学・思想辞典」は「幸福」を、「ある主体の欲求ないし要求が持続的に満たされた状態」と定義しています。「何に対して満足を感じるか」がそれぞれ違うということが、幸福について語るのが難しい最大の理由でしょう。

例えば何を与えられても、そのありがたみが分からず、次々と新しい物を欲しがる人間にとっては、現状は常に不満ということになるでしょう。まさにショーペンハウエルが言うように、「富は海水に似ていて、飲めば飲むほど喉が渇く」もので、金銭的・物質的欲望にはきりがありません。古代のストア派の哲学者が禁欲的な生活を求めたのも、移ろいやすく不確かな外的・物質的な状況に左右されない心のあり方に、幸福の核心があると考えてのことでした。

また、消費社会でただ享受するだけの安楽な生活に慣れきってしまった人も、幸福を感じにくくなるのではないかと思います。幸福論で有名なアランは言っています。「有名な山の頂上まで電車で行った人は、登山家と同じ太陽をおがむことはできない」と。額に汗し、一歩ずつ苦労して山頂にたどり着くからこそ、そこで見る太陽が格別なのであって、途中のプロセスの苦労を厭えば達成感は薄れ、やりがいや生きがいを感じにくくなるのは当然です。

幸福でありたければつまり人生に対して持続的な満足感を持ちたいのであれば、物質的にはある程度のところで満足し、周りに振り回されない自分の価値観を築いていくことが大切でしょう。不幸の原因を自分の外に求め、周囲の状況をいたずらに嘆いてばかりいるのは無駄です。何よりも自分の考え方を見つめ直してみてください。自分にとって最も身近で永続的な財産は、人生観や価値観という自分の考え方であるということに気づくのが、幸福への近道ではないでしょうか。

七月十四日「北日本新聞」朝刊の連載シリーズ『心のかたち』より転載。

富山国際大学准教授　大谷　孝行

一　立山に守られて

今月の十四～十六日は、学校・官公庁は勿論、ほとんどの会社でも三連休だったと思います。そしてこの三連休を利用して観光地や行楽地への旅行計画を立てていた人も少なくなかったのではないかと思います。ところがその行楽に意地悪するように、台風4号が日本列島を襲いました。秋に比べこの時期の台風は弱いものが多いとのことですが、この度の台風4号は、七月の台風としては観測史上最強クラスだったようです。十三日に最大風速四五m、最大瞬間風速六〇mに達し、ゆっくり沖縄から九州全土を席捲し、四国、本州の太平洋側を通過、十六日には勢力を弱め東北の三陸沖へ消えて行きました。

この九州、四国地方や太平洋側で大きな雨、風の被害を出した台風4号が富山県に最接近したのは、十五日の正午ごろでしたが、県内は台風の暴風・強風域には入らず、風による大きな被害はありませんでした。

以下は十六日の北日本新聞朝刊掲載の記事です。

「富山気象台によると、台風が最接近した十五日の正午ごろ、県内は風速二五m以上の暴風域・一五m以上の強風域には入らなかった。最大風速は富山で七m、高岡で九・四m。一四mを記録した朝日町泊以外で、風速一〇mを超えた観測地点はなかった。台風による風は沿岸部を中心にやや強く吹いた。台風4号は、台風に向かって反時計回りに吹くため、台風4号が最接近した際は、県内は北東の風が吹くことになる。だが、今回は、台風の中心に距離があったことに加え、県内の東に位置する立山連峰が『防波堤』の役割を果たして風を遮ったため、強風が吹かなかった。一方、沿岸部や朝日町泊は、風が立山連峰の影響を受けずに吹き込んだため、やや強くなった。」

今回に限らず我が富山県はあまり大きな台風被害がありません。立山連峰のおかげです。

大きな被害をもたらした台風4号が、やっと過ぎ去り、やれやれと胸を撫で下ろした十六日午前十時すぎ、突然、家が揺れました。地震です。ゆらゆら揺れていて、いいかげんに止まらないかと思ってもなかなか止まりません。このままなら大丈夫だが、これより揺れが強くなると危ないなと感じ、外へ出ようかと思った時に揺れが止まりました。

「新潟県中越沖地震」です。

被害の程は新聞やテレビで報道されている通り、思いの外甚大でびっくりしています。距離があるとはいえど、隣の県が震源地の地震であの程度の揺れなら、先の「能登半島地震」よりは小さい地震だと思っていましたが「阪神淡路大震災」とまではいかないまでも、いまだに瓦礫の下から行方不明者の遺体が発見されるなど被害の程はかなり甚大です。

この度の地震でも我が富山県はあまり大きな被害を受けませんでした。私の住んでいる高岡市では、先の能登半島地震では震度4、この度は震度3でした。震源地からの距離も関係あるのでしょうが、この度も立山のおかげだと思います。

以下は十七日の北日本新聞朝刊掲載の記事です。

『能登震度5でも県内3・立山連峰が地震波吸収』

「新潟県柏崎市などで震度6強を観測した新潟県中越沖地震＝マグニチュード6・8＝で、能登半島では震度5弱を記録したが、県内は最大で震度3にとどまり、揺れの大きさに差が生じた。富山大学大学院の竹内章教授（地震地質学）は『北アルプスを含む立山連峰が、東からの地震波を伝わりにくくする役割をした』と説明する。北アルプスには火山があり、地下のマグマは地震波を吸収しやすい性質を持つからだ。能登半島は地震波が直接伝わったため、揺れが大きかった」。以下省略。

竹内富山大学大学院教授

これ以外に、北アルプスを含む立山連峰は富山県に多大な恩恵を与えています。それは冬季の積雪です。以下、富山県の降雪のメカニズムを解説します。

地球が傾斜しているため、北半球に位置する日本は、日照時間に差が出てきます。日照時間が長い期間は夏、短い期間は冬と言われています。冬季には冷たい風が北方より吹き降ろします。その冷たい風が温かい日本海から昇る水蒸気をたっぷり含んで日本列島へ吹き付けます。富山県ではその空気（風）が北アルプスを含む立山連峰にぶつかります。ぶつかって上昇し温度が下がり、飽和状態の水蒸気が水滴となり更に氷の結晶（雪）となって富山平野や北アルプス・立山連峰に降り注ぐのです。

このようにして大量にもたらされた雪は、平野部では邪魔者扱いされ「富山はいい所だが雪さえなければ」という言葉をよく耳にしますが、とんでもない、この雪こそが、夏場にも冷たく清らかな雪解け水を絶え間なく私たちに与えてくれているのです。

もし、富山県の背中（南側）に北アルプス・立山連峰がなかったら空気（風）は富山県を素通りし、富山県にはそんなに多くの積雪がないと思います。

有名なヴェニスの商人・マルコ・ポーロの「東洋見聞録」に依れば、この日本は『東方の果てに「ジパング」という一つの国があり、この国の建物は、柱、欄干・甍は凡て、金・銀で造られている』と紹介されました。（一説に依れば金閣寺・銀閣寺を見ていった）それ以後は、「ジパングへの道」という言葉もあるくらいに、西欧人の日本へのあこがれを焚き付けました。

私は今日の日本は、北は北海道から南は沖縄まで全体がこれ極楽だと思っています。四季の移ろいあり、緑はゆたか、戦いは無く平和そのもの、物は溢れるくらいにあり、安倍総理ではありませんが「うつくしい国、ゆたかな国、平和な国」日本です。

その極楽中の極楽、それが北アルプス・立山連峰を背中に、特殊な海底状態を有するが故に豊富な漁獲に恵まれた富山湾を目の前にした、我が富山県と私は思っています。水はうまい、米はうまい、酒は美味い、魚は旨い。自慢じゃありませんが（と言ってするのが自慢）他所へ行って食べ物がうまいと思ったことはあまりありません。他所から来た人はほとんど「うまい」と言います。こんな素晴らしい国土に生まれ育てさせて頂きながら、それを実感できない人々は、来世は餓鬼・畜生・はたまた修羅界に生まれるのでしょうか。

有限会社　沖商店　代表取締役　沖昌弘
個人メール E-mail　0ki2525@oki-shouten.com
（にこにこ通信へのご意見をはじめ個人的なご連絡はこちらへください）